

教員名	高濱 裕子 (TAKAHAMA Yuko)
所 属	子ども発達教育研究センター
学 位	博士 (人文科学) (2000 お茶の水女子大学)
職 名	教授
URL/E-mail	takahama@kodomo.ocha.ac.jp

◆研究キーワード

システム・ダイナミクス / 親子システム / 歩行開始期 / 反抗・自己主張 / 親行動発達支援

◆主要業績

総数 (4) 件

- ・論文 高濱裕子・渡辺利子 「母親が認知する歩行開始期の扱いにくさ：1歳から3歳までの横断研究」 お茶の水女子大学子ども発達教育研究センター紀要第3号, pp.1-7, 2006(2月)
- ・著書 高濱裕子 「反抗期の親子関係：1歳から3歳までの縦断研究が教えてくれるもの」 幼児の教育第105巻第3号, pp.8-15, 東京:フレーベル館, 2006(3月)
- ・著書 高濱裕子 「子育て支援」 江川紋成・高橋勝・葉養正明・望月重信 (編著) 最新教育キーワード137 [第11版], pp.220-220, 東京:時事通信社, 2005(6月)

◆研究内容

「歩行開始期の子どもをもつ親への養育支援」われわれは、すでに4年間にわたって「歩行開始期の子どもをもつ親に対する養育支援」を検討してきた。この研究の目的は、(1) 2歳前後に始まるとされる反抗期における家族システムの変化を、多様な測定法によって重層的に記述すること、(2) 反抗期をはさんだ歩行開始期の養育支援の具体的手立てを構築することである。これらの目的を達成するために3つの課題を設定した。①1歳児の親子を同一の変数を用いて2歳時点と3歳時点で測定し、各変数の変化の様相を明らかにすること、②反抗期の始まりから収束までの親子システムの変化を縦断的に測定し、システムの変化のプロセスを記述すること、③歩行開始期の子どもをもつ親や家族に対する養育支援を目的としたプログラムを開発することである。

◆教育内容

大学院前期専攻では、「保育者養成論」および「幼児教育課程論」を担当した。「保育者養成論」では保育者(幼稚園教諭や保育所保育士)の専門性や専門性を支えるさまざまな資源について、内外の文献講読を通して検討した。対人援助を目的とする他の職業(看護師、介護福祉士、教師など)との比較もおこないながら、保育者の専門性への洞察を深めた。「幼児教育課程論」では、乳幼児の発達を保障する教育課程(保育計画)とは何かについて考察した。幼稚園や保育所の保育計画の実際を多数入手し、保育の計画と実践、評価などについて検討した。また、乳幼児期にふさわしい生活の組み立てについて、5箇所の施設見学(幼保の総合施設、子育て支援センター、公立幼稚園の公開研究会など)を通して考察した。

◆Research Pursuits

Child Rearing Support to Parents who have Toddlers
We have already been examining `child rearing support to parents who have toddlers' for four years.
The purpose of this study are, (1) to describe changing the parent-child system on negativism by various metrologies, and (2) to construct the concrete ways of child rearing support to parents who have toddlers.
We set three tasks, and almost achieved two sooner or later. One remaining task is to construct the program that supports the parents' child rearing.

◆Educational Pursuits

I took charge of three seminars of the graduate school master's course. Those contents were as follows. That is,
(1) The education and training for teachers of preschool or kindergarten, and the professional development as preschool teachers
(2) The curriculum with a preferable kindergarten and day-care center where the infants, toddlers, and young children's development are secured.

◆将来の研究計画・研究の展望

歩行開始期の親子システムについてのわれわれの研究結果から、3歳時点の子どもの自己主張は約70%の親が強まったと認知していることがわかった。この結果は、わが国の子どもの社会化の現場に、従来とは異なる変化が起きている可能性を示唆している。今後は幼児期後期から学童期の自己主張のゆくえを、家庭、集団保育施設（幼稚園や保育所）、学校などにおいてカリキュラムと実践との両面から検討したい。発達の視点をもった比較文化的な検討がぜひとも必要であると考えている。

◆共同研究可能テーマ・今後実用化したいテーマ

- ・環境移行と移行期の適応（入園・入学）

◆受験生等へのメッセージ

親や保育者などの成人発達のメカニズムには、まだよくわからないことがあります。それらを解明したいと思っています。また、現職の保育者（幼稚園教諭・保育所保育士）が抱えるさまざまな課題を、発達の視点から検討したいと思っています。